

佐々中学校平和宣言

80年前、一発の原子爆弾により、長崎の街は無残な姿に変わり果てました。人も動物も草も木も、生きとし生けるものすべてが焼き尽くされ、15万人が死傷しました。なんとか生き延びた人々も心と体に深い傷を負い、今も放射線の後遺症に苦しみ続けています。

昨年、私たちの長崎県で結成された組織、被団協（日本原水爆被害者団体協議会）がノーベル平和賞を受賞しました。この受賞は、被爆者の立場から核兵器廃絶を訴え続けてきた被団協の長年の活動が評価されたものです。被爆の実相を世界に伝える活動が認められたことをあらわします。県民にとっても誇りであり、喜ばしい出来事でした。

その一方で、いまだ世界中では多くの紛争が続いている。2022年から始まったロシアのウクライナ侵攻は、多くの市民の命と日常を奪いました。また、今年、イスラエルがイランに攻撃を行いました。今、まさに核兵器が使われる危機にあります。一刻も早く、核のボタンを無用なものにしなければなりません。これ以上負の連鎖を繰り返してはなりません。

6月には、佐々中学校にも被爆者の大庭さんに来ていただき、講話をしていただきました。大庭さんが語る悲惨な80年前の長崎。大庭さんは家族と畑作業中に被爆されました。10mほど飛ばされ、周りは何も見えなくなつたと話されました。

家族や仲間、故郷、すべてを破壊するのが原子爆弾であるということを学びました。戦争の記憶が風化していく中で、被爆地に生きる私たちに何ができるでしょうか。現在の色鮮やかな日常を守り続けていくのは私たちです。

私たちの祈りを大きな願いに変えて、身近な平和から築いていくために、私たちは次の5つのことを実践していきます。

- 一. お互いの人権を尊重し、自分の命、周りの人の命を大切にします
- 一. 相手の話をよく聞き、気持ちや立場を想像することを大切にします
- 一. 違いを良さととらえ、自分の考えを深めていきます
- 一. 被爆の実情を学び、後世に伝えていきます
- 一. 仲間と協力し、幸せな社会への一歩を成し遂げます

まずは足元から、誰もが安心・安全だと思える集団・社会をつくりていき、二度と核兵器の使われることのない世の中にしていくことをここに誓います。